

私の海外旅行遍歴

松賀 正考

私は歯学部に行く前に大阪外大（現 阪大外国語学部）英語学科を卒業した変わり種です。英語学科で机を並べた同級生たちの多くはもちろん語学が好きで海外雄飛（当時の憧れ気分の言葉）を夢見る若者たちでした。大学での教科は、英語そのものの研修以外にも英米文学、言語学、国際関係論、貿易英語、等々広く浅くですが英語圏の情報全般を学ぶものであり卒業生のほとんどが何らかの形で国際的な業務に関連した分野に進みました。しかし、私は、その卒業1年前に唯一の肉親であった母親の死によって独り切りの状況になったこともあり、人生の方針を考え直し、歯学部への再進学をしました。語学だけでは単なる便利屋になるだろう、やはり、確たる資格を基盤として持った人生を送りたいと思ったのです。

しかし歯学部生活を送りつつも海外への強い憧れの気持ちは持ち続けており臨床実習の始まる前年の最後の自由な夏休みに、ついに思い切ってヨーロッパ1カ月の旅に出かけました。これが私の初めての海外体験でした。当時は家庭教師のアルバイトを10軒位掛け持ちし大卒初任給程度の収入を確保しており、その時点で貯め込んでいた貯金を全て注ぎ込んだの大冒険ツアーでした。大学を卒業して社会に出たら、そんな長期の自由な挑戦は出来ないだろうとの思いがありました。確かに、その後、歯科医としての現役を離れるまでの30年そんな長期の自由旅の機会は持てませんでした。感受性の高い若い時期に、このような経験を持てたのは本当に貴重だったと思います。

最初の2週間はオックスフォードでホームステイしながら語学研修を受け、その後2週間はユーレイルパスと言うヨーロッパの鉄道乗り放題のチケットを使っての自由旅でした。

オックスフォードからロンドンを経てフェリーで着いたパリの朝の景色の感動は今も鮮明に覚えています。パリ観光の後、オックスフォードで親しくなったスイス人の友人を訪ねてスイスまで足を伸ばし、ベルギー、オランダを回ってパリに戻ったようです。しかし、インターネットもGoogleもなかったあの時代、どうやってホテルの予約を取ったのか、行程の経路をどうやって調べたのか、今では信じられない思いです。まあ人間、便利な道具がなければいけません、どうにかするもんだなあと思います。



オックスフォードでの研修仲間



ホームステイ先の家族と



週末のロンドン観光

そんな初海外体験から現在まで、多忙な現役時代も、学会だの、セミナーだの、国際デンタルショー、専門医試験、等々の名目で海外に出かけ、ヨーロッパ（イギリス、フランス、イタリア、オランダ、ベルギー、モナコ）、アメリカ（ハワイ、ニューヨーク、サンフランシスコ、フロリダ）、ニュージーランド、タイ、中国、韓国、台湾等々、海外旅行経験は20回を超えます。

印象に残っている旅行の一つは専門医試験の受験仲間の若手の先生と欧州インプラント学会の参加のため出かけたモナコのセレブな街の光景とその際経由したローマ、フィレンツェ、ナポリの歴史的街並みの重厚な美しさでしょうか。



雄大なコロッセオ



壮麗なバチカン サン・ピエトロ大聖堂



映画などでも有名なトレビの泉

ローマからモナコまで直行の飛行機は飛んでおらず、ローマからニースへ飛び、ニース～モナコは人生初のヘリコプターで移動しました。



ニースからモナコまでのヘリコプター

ただ、この時は、その友人がモナコの高級ホテルに到着直後に注文した半ナマのタルタルステーキで食当たりし2日間苦しんだ後、たつての希望でこのセレブの街の寿司屋に行き、目玉の飛び出るような値段に目を白黒させた記憶があります。



モナコ・モンテカルロの美しい海岸の街並み



モンテカルロ・グランプリコースを疾駆？したミニベンツ

もう一つ忘れ難いのは、滞在中あの9.11テロの当日、崩壊したツインタワーのすぐ側に居合わせたニューヨークツアーでしょうか。まさにこのツインタワーの中にあるフェリーのチケット売り場に向かうべく乗っていた地下鉄が突然停止し訳のわからないまま地上に出て大きなビル火災の光景に呆然としました。この大火災がテロによって突っ込んだ航空機によるものであった事を知ったのは、午後ホテルに戻ってからでした。それは本当に歴史的な事件の現場に立った、しかし、危機一髪の、衝撃的経験でした。



テロとは知らず呆然と立ちすくむ



NY テロ事件で、ツインタワーの一棟が崩壊した瞬間

また、モナコの時と同じ若手の友人とドイツで開かれたIDS（国際デンタルショー）に出かけた時は宿泊したデュッセルドルフから会場地のケルンまでを借りたレンタカーで2人でアウトバーンを100km/h以上でぶっ飛ばしていたのに後ろからパッシングで煽られたり、ドイツ語しか喋らないカーナビの案内が分からず、下り口インターを間違え、田園風景の中で迷子になって途方に暮れるトホホな経験をした事もありました。



友人とアウトバーンを走ったレンタカーのベンツ



ケルンのIDS会場前で



ケルン大聖堂の前で

10年ほど前から息子に診療実務を委ねてから、2018年に兵庫県立大学の大学院に入学し、20代の若者たちと机を並べて、若い日からの夢であった文系文野の研究に取り組み始めました。

この年の年末年始にもニュージーランドのオークランドに10日間ほどのホームステイの旅で、現地の家庭に泊まり、半日の英語研修と観光を兼ねたツアーをし、悲喜交々の色んな体験をしました。人口比で世界で一番多いというゴルフ場にも出かけ、コースに初デビューもしました。



人生初のコースデビューで初対面の人と周る

アイアン1本でコースをぼちぼち歩いていると、後ろからすごい距離を打ってぐんぐん近づいて来る人に「ほくも1人だから一緒に周ろう」と言われ、打ち方やマナーまで熱心に教えてもらったりしました。しかしその疲れもあったのか、帰国当日の朝、バスに乗り遅れそうになって駆け出した坂道で思い切り転倒し眼鏡をかけた顔面を痛打して、目の周りが腫れ上がる悲惨な目にあったりしました。



ホームステイした住宅と転倒した坂道

それでも懲りず、コロナ禍の真っ只中の2022年知人のオランダ駐在をきっかけに、オランダ・ベルギー・フランスの20日間の旅をしました。何しろあのコロナ騒動の最中、日本は半ば鎖国状態で、この20日間パリのルーブル美術館やベルサイユ宮殿等の定番観光スポットでも人影は少なく日本人観光客とはただ1人も会わないと言う稀有な旅でした。



ルーブルでモナ・リザを観た証拠写真

私の海外旅行では、大小様々なトラブルに見舞われるのが常のようで、この旅でもパリ到着の夜10時頃スーパーに買い物に出かけた帰途、突然スマホの電波が途切れ Google Maps が使えなくなり迷子になってしまい、偶々通りかかった警察官の手を借りてようやくホテルに辿り着くようなトラブルに遭いました。それを手始めに、ブリュッセル駅の雑踏の中で、2台目の予備のスマホと日本円を入れたセカンドバッグを紛失（置き引きの疑いも）するなどの事件にも遭い、特にパリでのスマホの電波の途絶は致命的な問題でした。翌朝思い余ってパリの日本大使館に駆け込もうと凱旋門前から歩き始めた時、偶々出会った日本人留学生にピンチを救ってもらい大使館に行く必要が無くなりました。



日本大使館に向かって歩き出した凱旋門前

その後ホッととして飲んだシャンゼリゼのカフェのコーヒーの味は格別でした。



ピンチを脱し一息ついたカフェ

この20日間ツアーの大トラブルはさすがにこたえ去年は人生で2度目（新婚旅行のハワイ以来）のバックツアーでドイツの古城都市巡りをしました。



白亜の名城ノイシュバンシュタイン城



中世の面影が残るローテンブルク

バックだけに、お気楽ではあったものの、やはり旅の実感に乏しく、その2カ月後、ウィーンへの個人旅行をしました。

この旅でも色々なトラブルは付きまといました。ウィーン大学の近くで道が分からなくなり、そばのカフェ店員の娘さんに尋ねたところ、丁寧に道案内をしてくれた上、慌てていた私のバッグが開いているのを教えてくれ、さらにガイドブックに挟んでいたメモを落としたのをわざわざ追いかけて来て渡してくれたたり、現地の人たちの優しさにも触れる思いがしました。



伝統的建築のウィーン大学

しかし別の日にはモーツァルト・コンサートの帰り道に市電を降りる停留所を間違え、夜10時を過ぎた夜のウィーンをトボトボと半時間以上歩き汗だくになったりしました。



伝統的な楽友協会でのコンサート

とどめは帰国便の飛行機でした。ホテル近くのウィーン中央駅から Google の指示通りの時間、プラットホームに着いた列車に乗ったのに、これが何と空港駅とは逆方向の特急。

途中で気がついて引き返したものの、2時間近く時間をロスし飛行機のチェックインの時間に間に合わず搭乗不可となり一瞬頭は真っ白。しかし気を取り直して世界中を飛び回っている例のオランダ駐在の際にも、お世話になった航空宇宙関係のエンジニアの知人の事を思い出し、駐在中だったヒューストンに LINE 電話。国際電話の煩わしい手順もなく、朝食中だった知人と奇

跡的につながりました。そのアドバイスと協力のお陰で、数時間後の別の便が取れ、結局数時間遅れで関空に到着、無事帰国できたのでした。

英語学科時代当時の海外旅行熱から始まった20回を超える海外ツアーの経験を経るにつれて、改めてしみじみ感ずる事は、皮肉にも、我が日本という国のどんな国にも優る素晴らしさです。これほどどこに行っても清潔で、安全で、あらゆる機会に触れる人々の優しさに溢れた国は他にない事を実感します。欧米先進国であっても、近年、移民の増加の影響もあって治安は必ずしも良いとは言えません。どこに居ても、常に油断せず、自分の持ち物や周囲の動きに気を張っている必要があります。うっかり物を置き忘れてたり、落としたりすれば、それが手元に戻って来る事はまず期待出来ません。治安が行き届き、のんびり、ゆったりと過ごせる我が国の治安の良さは稀有なものである事を思い知らされます。それに世界的な有名な観光地であっても我が国のような隅々までの清潔さは見られません。特に我が国ではどんな所に行ってもトイレのキレイさは格段の差があります。さらに加えて、欧米でもほとんどのトイレが有料なものも、無料でピカピカのトイレが使える我が国との差は気になります。有料と言えはキャッシュレス化の影響もあって昔ほどではないにしても、レストランやホテルのサービスに対するチップの制度も我々にはストレスになります。それに、何より深く感じるのは、あらゆる場面で接する人々の相手の身に寄り添う思いやりの心です。さらに四季それぞれに豊かな彩りがあり暑さも寒さもそれほど過酷なものではない穏やかな気候、そして、どの国と比較しても決して引けを取らない長く深い歴史とその時代それぞれの豊かな文化的遺産、また世界中のあらゆるジャンルの料理が美味しく提供される食生活の豊かさ。それらの数々の優れた特質を考える時、我が日本

ほど素晴らしい国は本当に他には見当たりません。それはまさにチルチルミチルの寓話そのものであり、幸せは他ならぬ自分の足下にある事に気づかされたのが我が海外ツアー遍歴の結果のような気がします。

しかしこれからもトラブルにめげず旅に出ることと思います。実は4月にも台湾ツアー（3度目）の予定をしています。故宮博物院と九份の街、本場の小籠包、夜市の屋台、等を楽しみにしています。

また皆様ご都合が合えば、一緒に海外の旅はいかがですか？ただし海外『トラベル』ではなく「トラブル」ツアーになるかもしれません（笑）。

《私の旅ブログ》

私が若者たちに混じって兵庫県立大学の大学院に入学したのは、7年前の2018年でした。この年から2年間会計研究科にて会計学全般を学び会計専門修士の学位を頂き、さらに経済学大学院にて主として税務分野を中心に学び、その後も昨年経済学の博士課程に入学し研究を続けています。現在の研究テーマは『デジタル化・ネットワーク化・グローバル化による現代経済の変質』です。

この大学院生活のスタートに合わせて、ブログ記事を書き始めました。それから7年にわたってコツコツ書き貯めたブログ投稿は、気がつけば150を超えています。その半数以上が国内外への旅の記録になっています。お暇な折の時間つぶしにでもお読みいただければ幸いです。

《シニア院長のブログ》

(http://www.matsuga.net/senior_blog/)

『シニア院長』で検索いただければ、トップに出て来ます。

また、旅の断片的な記録ですが、YouTubeにも動画をアップしています（『シニア院長日記』で検索）。